

<u>7月1日(土)</u>	13時30分～17時15分 <記念シンポジウム> 17時30分～18時30分 <第14回総会> 総会終了後懇親会を予定しております
<u>7月2日(日)</u>	9時30分～12時15分 <分科会>
<u>会場(両日とも)</u>	コープイン京都

総会記念シンポジウム (7月1日 13時30分～)

市民生協第2の創業へ！

= 現場からの問題提起に私たちはどう応えるのか？ =

組合員と職員の接点である現場では、いま、さまざまな変化が創り出されています。

新しいコミュニケーション(関係づくり)の質を追及する取り組みが行われています。私たちはこれらの変化を、総じて新しい型の創出につながるもの、つまり進化への胎動と考えて、市民生協にとっての「第2の創業」と呼ぶことにしました。

第2の創業という言葉は、変化した環境のもとであらためて原点に回帰しつつ、現在の環境にふさわしい、ミッション、ビジネスモデル、組織を定義し直すことを意味します。そして、この動きの中心にあるのがネットワーク化です。ネットワーク化は「アウトソーシング」という側面をともしつつ、いまや、共同購入・個配の現場だけでなく、組合員組織や福祉事業にも広がっています。

事業や組織のネットワーク化はマネジメントのあり方を変えずにはおきません。同時に社会との接点を飛躍的に拡大することになります。これは単なる規模拡大のときとは違う新しい変化です。このことが市民生協のミッション、ビジネスモデル、組織を大きく変えようとしているのです。

ネットワーク組織においては、ピラミッド組織と違って、それを構成する個々の現場の自律性が高まる傾向がみられます。そして、そこでは、さまざまな職種、さまざまな雇用形態の人たち(組合員と職員の関係もここに含まれます)と一緒に仕事をしている実態があり、一方で厳しい事業そして労働の現実があります。私たちの組織は(何のために)あるのか、この仕事は(何のために)あるのか、という真摯な問いが、たえず現場から発せられるのも、そのためです。

私たちは、この現場からの問いかけに真摯に向かい合う場を提供することにしました。そして、何のための「アウトソーシング」なのか、それは組合員や職員、地域社会にとってどのような意味をもつのか、第2の創業のミッション、ビジネスモデル、組織について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

的場信樹(くらしと協同の研究所研究委員会代表)

- 解題 「なぜ、いま第2の創業なのか」
的場 信樹 氏(当研究所研究委員会代表、佛敎大学教授)
- 報告1 「物流最前線 - 事業戦略と生協物流」(仮題)
松岡 忠 氏 (トランコム株式会社執行役員事業開発グループ 統括マネージャー)
- 報告2 「地域づくりと協同組合の役割」
山中 洋 氏 (庄内まちづくり協同組合「虹」理事長)
- 問題提起 「第2の創業とは何か」
川口 清史 氏(当研究所理事長、立命館大学教授)

分科会 7月2日(日) 9:30 ~ 12:15

会場:コープイン京都

分科会によって終了時間が若干前後することがあります。

第1分科会

個配、品揃え、組合員の関係性づくり 「くらし発」共同購入・個配の現場から

問題提起・コーディネイト 的場 信樹 氏 (当研究所研究委員会代表、佛敎大学教授)

川口 清史 氏 (当研究所理事長、立命館大学教授)

報告1 佐竹 健 氏 (おおさかパルコープ都島支所支所長)

報告2 トランコム株式会社 <報告者調整中>

報告3 組合員に役立つ研究会 (京都市協自主研究会) <報告者調整中>

ここでは、まず、個配、品揃え、組合員の関係性づくりに取り組んでいる現場(実験)のリアルな実態を交流します。そして、それぞれの取り組みが、組合員や職員、地域社会にとってどのような意味をもっているのか、あるいはもちうるのか、矛盾や困難も含めて率直な意見交換をしたいと思います。私たちは特定のモデルを推奨しようとしているわけではありませんので、それぞれの立場から、持続可能なネットワーク事業を展開していくための条件や課題、展望を披露していただき、その場限りに終わらない真摯な議論を行いたいと考えています。

第2分科会

福祉事業・組合員活動・地域ネットワークの連携 「地域発」協同の現場から

問題提起・コーディネイト 上掛 利博 氏 (当研究所研究委員会運営委員、京都府立大学教授)

浜岡 政好 氏 (当研究所研究委員会運営委員、佛敎大学教授)

報告1 <報告者調整中>

報告2 野津 久美子 氏 (「おたがいさまいずも」運営委員、生活協同組合しまね副理事長)

報告3 松本 弘道 氏 (庄内医療生活協同組合専務理事)

この分科会では、日生協が「第3の柱」として位置づけ重視している福祉事業(介護保険事業)の分野であらためて注目されている事例、組合員のニーズにあわせて窓口を広くして組合員活動(福祉活動)に取り組み、生協全体の活性化にもつながっている事例、協同組合の持っている信用・人材などの総合力をベースに他の団体とも連携して地域ネットワークを作り、政策動向を先取りしながら地域づくり(仕事おこしと生活支援)を展開している事例をとりあげ、協同組合が“地域”にねざして暮らしを支えること(=福祉)の今日的意味と、その持続可能な展開のための条件、課題について真摯な議論を行いたいと考えています。

= 参 加 要 項 =

申し込み：この案内の裏面に印刷されています『第14回総会記念シンポジウム申込書』に必要事項をご記入の上、FAXなどでお申し込みください。

会場：コープイン京都（京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル TEL：075-256-6600）

定員：200名（会場の都合上、定員になり次第受付を締め切らせていただきます）

参加費：会 員 両日参加 3,000円（1日のみ 2,000円）

非会員 両日参加 5,000円（1日のみ 3,000円）

学生・院生 両日参加 2,000円（1日のみ 1,000円）

会員価格は、団体会員の構成員にも適用します。

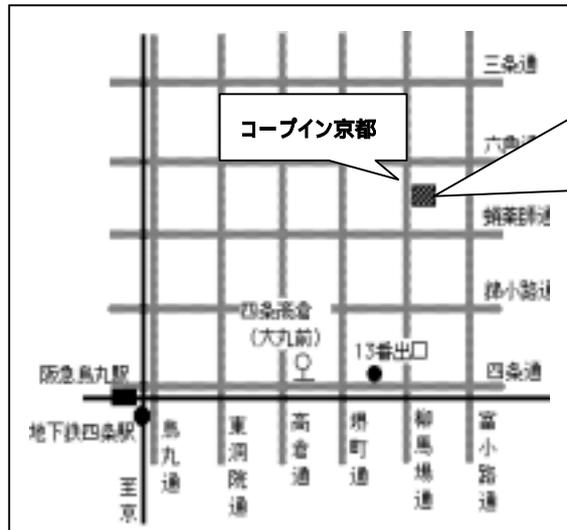
宿泊：斡旋いたします。（一泊朝食付で7,500円程度）

懇親会：1日のシンポジウム・総会（オブザーバー参加可）終了後、午後6時半頃より懇親会を行います。（会場はコープイン京都）お時間の許す方はぜひ、ご参加ください。参加費 / 5,000円

会員（個人会員）のみなさまへは総会参加の出欠確認表を別途ハガキをお送りしています。かならずご返送ください。

会員以外の方も総会へのオブザーバー参加、懇親会へのご参加を積極的にお願いたします。

【会場地図】



コープイン京都

京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル

TEL 075-256-6600

地下鉄「四條駅」、または

阪急「烏丸駅」下車徒歩13分



お申し込み・お問い合わせは くらしと協同の研究所

〒604-0851 京都市中京区夷川通烏丸東入る西九軒町291

TEL:075-256-3335 FAX:075-211-5037

E-mail: kki@ma1.seikyone.jp ma1の1は数字の「1」です。

URL: <http://ha1.seikyone.jp/home/kki/>

くらしと協同の研究所 第14回総会記念シンポジウム 参加申込み書(団体&個人)

締め切り日 6月16日(金) 定員200名 (定員になり次第受付を締め切らせていただきます)

団体集約用

(会員・非会員) いずれかに

記入欄が不足の場合は、コピーしてお使いください。
参加費は、同封の振込用紙で事前にお振込ください。
また、各団体で取りまとめてお振込いただければ幸いです。

団体名						記入者名				
記入者 部署名				電話番号 部署直通で			TEL	FAX		
住所	〒									
参加者氏名	所属	1日		2日分科会		参加費合計	お支払い		宿泊斡旋	
		シホ ^o	懇親会	第1	第2		振込	当日	30日夜	1日夜

個人申し込み用(会員の方)

個人会員の方には、別途「総会出欠確認票(ハガキ)」をお送りします。
シンポジウムもそのハガキでお申込みください(委任状になっておりますので、欠席の場合も必ずご返信ください)

個人申し込み用(非会員の方)

参加者氏名	所属	1日		2日分科会		参加費合計	お支払い		宿泊斡旋	
		シホ ^o	懇親会	第1	第2		振込	当日	30日夜	1日夜
住所	〒					電話番号				

お願い

参加される会場の欄にはすべて 印をご記入ください。
団体会員の構成員の方も会員価格でご参加いただけます。
FAXを送信いただいた場合で電話で着信確認をおとりください。
定員になり次第、受付を締め切らせていただきます。
宿泊は「コープイン京都」を予定しています。部屋の予約は当研究所にて行います。宿泊代は各自でご清算ください。

くらしと協同の研究所

〒604-0851 京都市中京区夷川通
烏丸東入ル西九軒町 291
TEL 075-256-3335
FAX 075-211-5037
e-mail :kki@ma1.seikyoku.ne.jp
「ma1」は数字の「1」